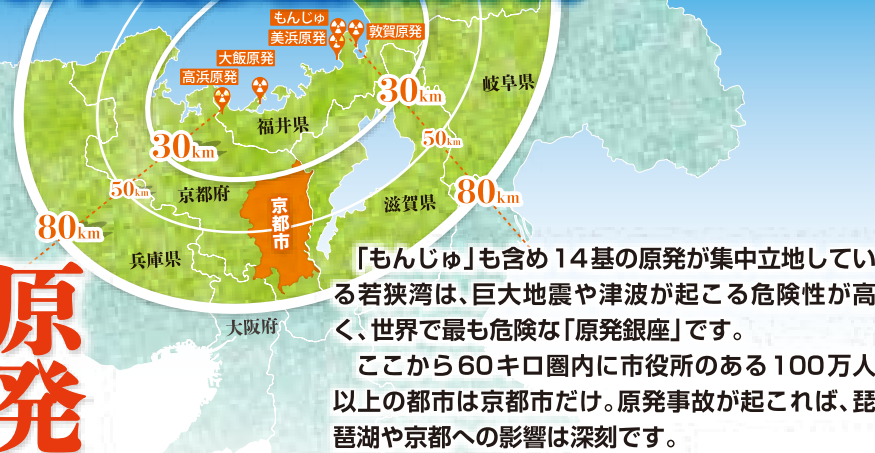


# 福井原発から30キロ圏内に琵琶湖 80キロ圏内に京都市がスッポリ



原発から撤退、自然エネルギー都市に

# 市長、市民の安全 守れますか？

**京都市域には、大きな影響はない**  
(市長記者会見)

## 新たな「安全神話」をふりまく門川市長

門川市長は「京都市域にはあまり大きな影響はない」と4月の記者会見で発言し、関西電力の株主総会では「脱原発」を求める株主の提案にすべて反対しました。

8月末に発表された防災対策総点検委員会の「中間報告」でも、「福島第一原発で起こったような複合災害が起こるリスクはかなり少ない」「琵琶湖方面に放射性物質が飛散しても、水中で希釈される(薄められる)」などとして、新たな「安全神話」をふりまっています。

**琵琶湖が放射性物質で汚染されても、水中で希釈される**  
(防災対策総点検「中間報告」)

9月市会の代表質問で、日本共産党議員団は、このような発言・認識の撤回を求めましたが、市長は、自らの言葉で答弁することなく、無責任な態度に終始しました。



**(原発から60キロの) 福島市からの避難者**  
避難者の願いは一刻も早く原発をなくすことです。京都市の「中間報告」は原発稼働が前提です。勇気を持って「脱原発」を宣言してほしい。



日本共産党の提案

- 1 「脱原発」を宣言し、再生可能エネルギーの普及促進を
- 2 京都市域全体の原子力防災対策を確立し、放射能汚染対策の強化を
- 3 橋梁・住宅などの耐震化を急ぎ、災害に強いまちづくりを

